

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

作成日：令和5年 7月18日

更新日：令和5年 9月 7日

政策No.	3	政策名	うるおいと活力のある 快適なまちの形成	施策主管課	道路整備課
施策No.	22	施策名	道路・交通基盤の整備	施策主管課長名	飯野 芳彦
施策関連課名		市民活動支援課、都市計画課、管理住宅課			

1 施策の目的と指標

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)	単位
市民	A 人口	人
	B 道路(市道)延長	km
	C	
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
A)道路を安全・安心に利用できる B)生活に必要な移動ができる	① 道路が安全に利用できると感じる市民の割合	%
	② 橋梁修繕率(R6年度まで)	%
	③ 公共交通で生活に必要な移動ができると思う市民の割合	%
	④ コミュニティバス延べ利用者数	人
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	① 道路整備状況への市民の評価を示す/市民が道路を安心・安全に利用できることが施策の目的なので、そう感じる市民の割合を成果指標とした。 ② 橋梁の安全性向上への取り組み状況を示す/橋梁長寿命化修繕計画に基づき適切に橋梁の修繕が行われれば、道路の安全性が高まるので、成果指標とした。 ③ 公共交通への市民の評価を示す/高齢化・核家族化が進んでいる中、自家用車の利用者が多い本市においても自分や家族などの運転する車で移動だけでなく、公共交通で移動する需要が増していくと考えられるので、公共交通で生活に必要な移動ができると思う市民の割合を成果指標とした。 ④ コミュニティバスの利用状況を示す/市のコミュニティバスで生活に必要な移動ができれば、利用が増えるので、成果指標とした。	
成果指標の測定方法 (どのように実績値を把握するか)	① 市民アンケート調査『市内道路が安全に利用できると感じますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人の割合 ② 橋梁長寿命化修繕計画に基づき修繕を行った橋梁の数÷市道橋梁数(R6年度まで修繕予定200橋)×100 ③ 市民アンケート調査『公共交通で生活に必要な移動ができると感じますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた人の割合 ④ 南アルプス市コミュニティバスの年間延べ利用者数	

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	前期基本計画				後期基本計画					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象指標 A 人口	人	見込み値					71,089	70,568	70,041	69,521	68,996	68,430
		実績値	72,305	72,018	71,880	71,602	71,370	71,249	71,395	71,434		
B 道路(市道)延長	km	見込み値					878	878	879	880	881	882
		実績値	874	874	875	877	877	877	875	872		
C		見込み値										
		実績値										
① 道路が安全に利用できると感じる市民の割合	%	目標値	-	-	-	-	45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0
		実績値	-	-	-	44.6	44.4	44.8	41.7	43.2		
② 橋梁修繕率(R6年度まで)	%	目標値	-	-	-	-	80.5	84.0	90.5	94.0	100.0	
		実績値	72.5	74.0	75.5	78.0	78.5	79.5	83.0	84.0		
③ 公共交通で生活に必要な移動ができると思う市民の割合	%	目標値	-	-	-	-	14.0	15.5	17.0	18.5	20.0	
		実績値	-	-	-	12.5	12.4	14.0	10.4	9.4		
④ コミュニティバス延べ利用者数	人	目標値	-	-	-	-	62,000	69,000	76,000	83,000	90,000	
		実績値	20,143	30,719	40,861	48,513	52,763	54,394	60,605	72,533		

目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)

① 市民アンケートの新規設問であるため、成り行き値は平成30年度の実績値(約45%)からほぼ横ばいとし、目標値はこれを5年間で5ポイント増加し、令和6年度には2人に1人が肯定的な回答をすることを目標に、50%とした。
② 前期基本計画の修繕実績をベースとする成り行きでは令和6年度に100%に達しない可能性があるが、橋梁長寿命化修繕計画を基本に、目標値はこれまでの年間事業費及び計画どおり国庫補助金が得られることを前提として100%に設定した。
③ コミュニティバスの利用者数が伸びていることなどから、公共交通で生活に必要な移動ができると思う回答者は成り行きでも微増すると考えられるが、令和6年度には、現状の12.5%(平成30年度の実績・8人に1人)から20.0%(5人に1人)に増やすことを目標に設定した。
④ 運行当初から年間約1万人ずつ利用者が増えてきたが、30年度はやや伸びが減少し、今後はこれまで同様の伸びは難しい。R元年度は約5万5千人を見込み、成り行き値としては以後5千人ずつ程度の伸びとし、R6年度は8万人とした。目標値は、30年度から元年度の伸びである7千人増をキープしていき、R6年度は30年度の倍増となる9万人とした。

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
①道路等修繕箇所の報告(個人、地域)、道路等修繕要望についての優先順位の検討(地域) ②道路の草取り、水路清掃等地域の協力(個人、地域) ③道路拡幅事業における地元の協力(個人、地域) ④生活に必要な移動に市コミュニティバスを利用する。	①修繕箇所の早期対応、修繕内容・計画について市民・地域への適切な説明 ②橋梁長寿命化修繕計画に基づく計画的な修繕 ③幹線道路、生活道路の整備 ④市民ニーズを把握し、より便利で使いやすいバスの運行に努める。 ⑤安定的、また安全第一にバスを運行する。

4 施策の状況変化・住民意見等 ※目標設定の前提とした後期基本計画策定時点の状況変化・住民意見等を記載しています。

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R6年度末を見越して)どのように変化するのか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
①橋梁、水路、舗装等道路構造物の経年劣化により、今後さらに維持修繕が増えてくると考えられる。 ②厳しい財政状況が継続していくに伴い、維持管理及び道路改良事業の予算確保がより難しくなる。 ③団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になるといわれる2025年を目前に、本市の高齢化率も30%近くとなり、約3人に1人は高齢者となる。 ④高齢者の免許証自主返納が一段と進み、高齢者の日常生活における移動手段の確保がより重要となる。	①道路等の修繕については市民、地域及び議員等あらゆる分野からの要望が多い。H30年度の実績として通報件数391件、地区要望233件報告された。 ②道路改良については通学路等の安全対策、歩道設置及び水路への蓋設置の要望がある。また、旧町村時代からの要望が多少ある。 ③狭隘道路の解消について議会より質問がある。 ④バス停までが遠い、日中は空気を運んでいる(乗っていない)、乗り心地が悪い、などの意見が多く寄せられる。 ⑤コミュニティバスを利用する市民はまだ少ない状況にあるが、バスが便利になれば積極的に利用するといった意見や、自動車やバイクに乗れなくなったらバスを利用するといった意見は多い。 ⑥コミュニティバス事業の今後については、市民ニーズに沿って、運行路線や運行本数を充実させるべきといった意見が多くある。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	30	30	32	31	
関連事業予算額(単位:千円)	712,049	705,023	756,622	817,275	
国庫支出金	0	161,800	163,550	164,880	
県支出金	4,317	7,029	7,023	7,024	
地方債	448,500	146,400	187,700	183,300	
その他	34,067	34,788	107,072	177,007	
一般財源	225,165	355,006	291,277	285,064	

(1)目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標①目標より4.8%の減。道路修繕は、通報や要望の現場確認し、直管また業者へ依頼するなど迅速に対応しているが、緊急性を要しない場合や経過観察とすることもするため、未修繕と判断されたものと考ええる。 ・成果指標②目標より6.5%の減。橋梁長寿命化修繕計画により、健全性や優先度、予算の平準化を図り実施し、令和4年度末で168橋の修繕を完了。なお、国庫補助金の内示率が低く計画通りに進捗できないことが目標値との差と考える。 ・コミュニティバス事業については、定着しつつあり、年々利用者が増加しているが、目標値に達することはできなかった。 	
(2)時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標①の道路利用の安全度評価は、前年度より1.5%増となった。前年度より評価は良いが、安全性や快適性の観点から、まだまだ評価されていないと考えられる。 ・成果指標②の橋梁長寿命化修繕計画事業は、修繕内容や実施箇所を再精査するなかで、概ね計画通りに実施できている。前年度より1.0%増である。 ・コミュニティバス利用者については、運行開始当時よりも路線数、便数を増やし、鉄道駅への接続等、通勤・通学への利便性を高めたため、利用者は年々増加傾向にある。 	
(3)他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣自治体のアンケート調査は「満足度評価」であり、本市の都市構造、道路形態の違いもあり、成果指標①は評価条件が合わないため比較はできない。また、成果指標②は、他団体においても、計画に基づいて進められており、「ほぼ同水準である」と判断した。 ・コミュニティバス事業については、それぞれの自治体において、地域の規模や実情にあった運行方法であるため単純に比較はできないが、近隣市同様に前年度と比較して増加していることから、ほぼ同水準であるとした。 	

7 基本計画期間における施策方針

(1)施策の基本方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・適切な維持管理や長寿命化、安全対策を推進するとともに、必要な道路の整備ができるよう財源の確保に努め、安全性・快適性の向上を図る。 ・高齢者などの交通弱者のほか、より多くの市民が移動手段を確保できるよう、コミュニティバスなどの公共交通を気軽に利用できる環境を整える。 	

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R5年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R6年度)の方針

基本事業	今年度(R5)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R6)の方針
1 道路維持管理の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・要望や通報は現場状況を迅速に確認し適切に対処する。 ・道路施設の老朽化対策として、点検や調査を進め、計画的な長寿命化を実施する。 ・要望や通報に対処するための現場状況による工法検討と修繕費の平準化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度同様に進める。 ・職員が現場を確認し、危険度又は重要度による優先順位を定めて、適切に対処する。 ・橋梁及び舗装等の長寿命化計画に則って、計画的な維持管理に努める。
2 道路の安全性・快適性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・道路通行の安全のため、歩道整備や路肩改良、路面標示等の道路施設全般について整備を進める。 ・幹線道路や生活道路の整備実施路線は、効率的かつ効果的に整備を進める。 ・国庫補助金の内示額の減額による事業実施内容の再検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度同様に進める。 ・歩道整備や路肩改良、路面標示による注意喚起、道路環境を保全し交通安全の向上を図る。 ・幹線道路や生活道路も地域の意向や事業費、費用対効果等を十分研究するとともに国庫補助事業の認可となるよう検討し実施する。 ・「広域連携強化交通ネットワーク(新鏡中条橋)」の整備について、県及び関係市町と連携するとともに、早期実現に向けた働きかけを引き続き実施する。
3 コミュニティバス等の利用促進	<p>今年度、本市の公共交通のマスタープランとなる地域公共交通計画を策定する。現状を把握し、交通空白地域の解消や更なる利便性を高めるものとするため、市民の意見を聴き、関係機関と連携し検討を重ねていく。</p>	<p>R5年度に策定した地域公共交通計画に基づき、コミュニティバス等の既存交通手段の充実や利便性の向上と、新たな交通手段等の導入検討、整備に努めていく。</p>
4		
5		